

浄水場の水質管理に、TOC測定の新スタンダード

Sievers M5310C 型



✓ 告示準拠 ✓ 迅速測定 ✓ キャリアガス不要

測定方式：湿式紫外線酸化 + ガス透過膜式導電率測定方式

主な特長

- ・ キャリアガス不要でランニングコスト削減
- ・ 電源オンですぐに測定開始、ウォームアップ不要
- ・ 2分の高速サイクルでリアルタイム監視に最適
- ・ 0.3 mg/L未満の低濃度でも高い測定安定性を実現
- ・ 原水と処理水を同時に監視できる2流路モデル（オンライン型）

用途に合わせて選べる3つのモデル

モデル	特長	主な用途
ラボ型	オートサンプラーによる多検体自動測定	定期検査
オンライン型	リアルタイム監視	原水と処理水を同時監視
ポータブル型	小型・軽量で持ち運び可能	現場での迅速確認



検査方法告示※に準拠したカスタム多点校正プロトコル

告示【別表第30】では、検量線の作成方法を下記のように規定しています。

全有機炭素標準液をメスフラスコ4個以上に採り、それぞれに精製水を加えて、濃度を段階的にした溶液を調製する。以下装置の補正方法に従い検量線に相当する補正を行う。

Sievers M5310C型は **検査方法告示に準拠した検量線に相当する補正が可能** です。

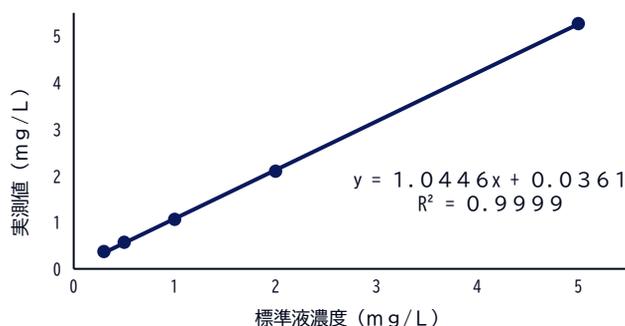
※ 水質基準に関する省令の規定に基づき環境大臣が定める方法（平成15年厚生労働省告示第261号）

水道水質検査方法の妥当性評価ガイドラインに対応

妥当性評価ガイドラインに沿った評価試験が可能です。

- ・ 検量線の作成
- ・ 検量線の評価（キャリーオーバー・真度・精度）
- ・ 添加試料の評価（真度・並行精度・室内精度） など

検量線の評価



検量線最低濃度 (0.3 mg/L) の繰り返し精度

0.3mg/L KHP	測定値 (ppb)			平均値 (ppb)	RSD (%)
	1回目	2回目	3回目		
バイアル①	307	305	305	306	0.94
バイアル②	304	310	310	308	2.83
バイアル③	311	317	312	313	2.62

試料間の平均値：309ppb

試料間の相対標準偏差 (RSD)：2.94%

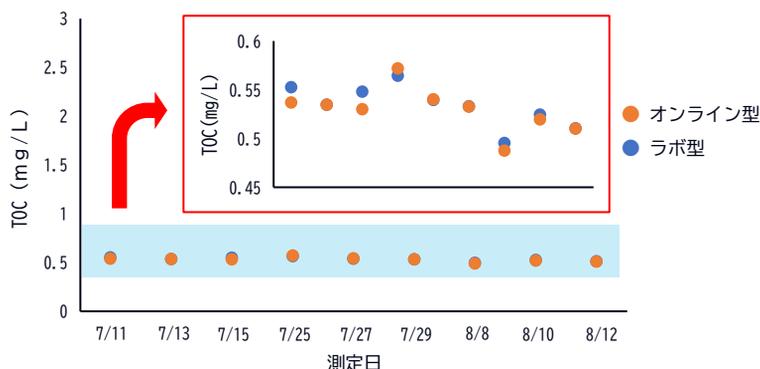
現場課題を解決するオンライン型

検査方法告示に準拠した連続自動測定機器

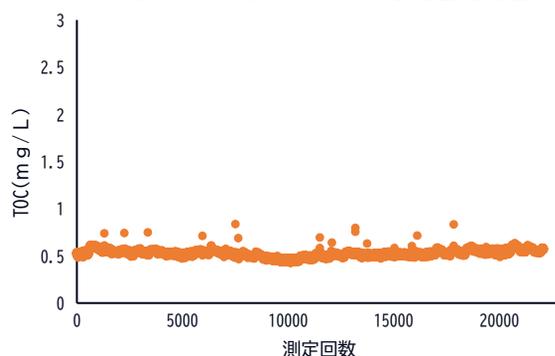
従来のラボ測定では困難だったリアルタイム監視、省力化、高精度測定を可能にします。

- ・ 人手不足や測定頻度の制約を解消
- ・ 水質検査の自動化や効率化を実現

オンライン測定とラボ測定の比較 (水道水)



水道水のTOC濃度推移 (1ヶ月間連続測定)



本社 〒104-0053 東京都中央区晴海 2-1-40 晴海プライムスクエア
TEL:03-3812-0226 FAX:03-3814-7538

セントラル科学株式会社 大阪支店 〒532-0003 大阪市淀川区宮原 4-6-18 新大阪和幸ビル
TEL:06-6392-1978 FAX:06-6392-1971

セントラル科学 ウェブサイト

<https://aqua-ckc.jp/>

